

言語学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
現代言語学概論	言語学概論Ⅰ	2	後藤 斉	3	金	2	1
現代言語学概論	言語学入門(運用)	2	木山 幸子	4	金	2	2
現代言語学基礎講読	語用論研究法入門	2	木山 幸子	3	月	2	3
現代言語学基礎演習	入門的言語調査・実験 法実践	2	木山 幸子	4	月	2	4
言語交流学基礎講読	統語論入門	2	小泉 政利	4	金	1	5
音声学	音声学概説・調音音声 学	2	後藤 斉	3	水	4	6
音声学	音響音声学	2	後藤 斉	4	水	4	7
現代言語学各論	言語と思考	2	小泉 政利	6	水	3	8
現代言語学各論	モンゴル語の歴史	2	斎藤 純男	集中(5)			9
現代言語学各論	歴史語用論	2	椎名 美智	集中(6)			10
言語交流学各論	テキスト処理の基礎	2	後藤 斉	5	月	2	11
言語交流学各論	心理言語学方法論	2	木山 幸子	5	水	2	12
現代言語学演習	言語学研究法Ⅰ	2	後藤 斉. 木山 幸子	5	金	3	13
現代言語学演習	言語学研究法Ⅱ	2	後藤 斉. 小泉 政利. 木山 幸子	6	金	3	14
言語交流学演習	コーパスによる言語の 分析	2	後藤 斉	5	月	4	15
言語交流学演習	言語データ分析法基礎	2	木山 幸子	5	火	2	16
言語交流学演習	言語データ分析法発展	2	木山 幸子	6	火	2	17
言語交流学演習	生成統語論	2	小泉 政利	6	水	4	18
言語交流学演習	コーパス言語学の展開	2	後藤 斉	6	金	2	19

科目名：現代言語学概論／ Modern Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：後藤 斉 (教授)

講義コード：LB35201, **科目ナンバリング：**LHM-LIN202J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

言語学概論 I

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Linguistics I

3. 授業の目的と概要：

言語学の文献を読んだり卒業論文に向けて専門的に研究を進めていくうえでぜひとも知っておかなければならない基礎的な概念や言語現象, 分析方法などについて学びます。今学期は特に, 音韻論と形態論の分野に焦点を当てる。

4. 学習の到達目標：

世界の言語について基本的な理解を得る。音韻論と形態論における基礎的な概念を理解し、それを使って身近な言語現象を自分なりに分析できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス、言語学とは
2. 世界の諸言語 1：地理
3. 世界の諸言語 2：系統
4. 世界の諸言語 3：類型
5. 世界の諸言語 4：文字
6. 音声学 1：音声
7. 音声学 2：調音音声学
8. 音声学 3：音響音声学
9. 音韻論 1：音素
10. 音韻論 2：音節とモーラ
11. 音韻論 3：韻律と音韻現象
12. 形態論 1：語と形態素
13. 形態論 2：語形成
14. 形態論 3：辞書
15. まとめ

6. 成績評価方法：

概ね次のような基準で総合的に評価を決定する。

小テスト 40%、章ごとのテスト 60%

7. 教科書および参考書：

教科書：風間喜代三他『言語学』第 2 版、東京大学出版会、2004.

8. 授業時間外学習：

毎回、授業の復習をこまめに行うこと。テストには授業時間外に行う課題を含むことがある。

9. その他：

科目名：現代言語学概論／ Modern Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：木山 幸子 (准教授)

講義コード：LB45201, **科目ナンバリング：**LHM-LIN202J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

言語学入門 (運用)

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Pragmatics

3. 授業の目的と概要：

ことばは、様々な状況で、様々な話し手と聞き手の間のやりとりで用いられます。「語用論 (Pragmatics)」は、ことばの意味が状況や対人関係に応じてどのように変わるかを分析する学問です。本科目では、語用論的に見て動きのある身近な言語現象を取り上げながら、これまでに発展してきた語用論理論の概要を理解し、それらの理論を検証した主要な先行研究の要点を把握します。

4. 学習の到達目標：

身近な言語現象を語用論の視点から独自に分析的に考えられるようになる。また、言語処理の過程は使用者の特性（個人間の差および個人内の変化）に大きく左右されるものであることへの理解と受容の態度を持つ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 呼称：人をどう呼ぶか？呼ばないか？
3. あいさつ：対人関係構築の端緒を開く
4. あいづち：さえぎりか？促しか？
5. 敬語の東西：共時的変化をたどる
6. 敬語の古今：通時的変化をたどる
7. 間接的発話行為：なぜ直接言わないの？
8. 中間まとめ：ことばの持つ多様性
9. 語用論と認知機能：意図理解、メンタライジング、注意
10. 子どものことば：発達における協同注意の役割
11. ことばの性差：遺伝的影響？環境的影響？
12. 母語と外国語：その習得過程の違い
13. ことばと加齢：保たれる機能、衰える機能
14. 語用論の神経基盤：ことばと裏腹の意図を理解する仕組み
15. まとめと筆記試験：ことばを使う人間の多様性

6. 成績評価方法：

筆記試験 (50%)、毎回授業の最後に課すワークシート (50%)、授業時間外の関連の調査・実験の体験 (若干)

7. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

毎回とりあげるテーマに関連の深い文献を紹介するので、それを読むこと。また関連の調査や実験に参加してもらう機会を設けます (参加は任意)。

9. その他：

人間の言語処理過程の実証的研究のおもしろさを垣間見てもらいたいと思います。

科目名：現代言語学基礎講読／ Modern Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：木山 幸子 (准教授)

講義コード：LB31203, **科目ナンバリング：**LHM-LIN208J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

語用論研究法入門

2. Course Title (授業題目)：

Research Methodologies in Pragmatics: An Introduction

3. 授業の目的と概要：

語用論 (Pragmatics) は、ことばの実際の運用に目を向けた言語学の中でも比較的新しい学問分野です。本科目では、語用論で扱われる主要なトピックや理論について、受講生自身に文献を調べてまとめ、他の受講生と共有してもらいます。このグループワークを通して、専門的な文献の要旨を把握する基本的読解力と研究のプレゼンテーションの基礎を身につけることを意図しています。さらに、語用論研究における興味深い独創的テーマを自ら見出す訓練として、期末レポートで仮想語用論研究計画書をまとめてもらいます。

4. 学習の到達目標：

語用論の関心事と主要理論の概要を理解し、そこから独自の研究テーマを設定できるようになる。また、自身が調査した文献の要点を過不足なくまとめて専門外の他者にもわかりやすく伝えられるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス (教員)
2. 語用論研究の奥ゆきと広がり (教員)
3. 終助詞 (受講生)
4. 直示 (受講生)
5. 敬語 (受講生)
6. 文法化 (受講生)
7. 異文化間語用論 (受講生)
8. 中間まとめ：身近な言語現象の語用論的機能 (教員)
9. 語用論、対人配慮行動の理論の発展 (教員)
10. Grice の協調の原理 (教員)
11. Searle の発話行為理論 (受講生)
12. Brown & Levinson のボライトネス理論 (受講生)
13. Sperber & Wilson の関連性理論 (受講生)
14. Baron-Cohen の心の理論 (受講生)
15. まとめ：語用論研究の未来 (教員)

6. 成績評価方法：

期末レポート (50%)、発表分担 (30%)、毎回授業の最後に課すワークシート (20%)、授業時間外の関連の調査・実験の体験 (若干)

7. 教科書および参考書：

加藤重広・滝浦真人編 (2016)『語用論研究法ガイドブック』東京：ひつじ書房 (授業中に 2 割引購入の便宜を図ります)

8. 授業時間外学習：

受講者全員にグループ発表を担当してもらうので、その準備を他のメンバーとよく協力して進め、自分の分担作業は責任をもって行うこと (その自信がない場合は受講しないこと)。また関連の調査や実験に参加してもらう機会を設けます (参加は任意)。

9. その他：

期末レポートとして、語用論をテーマに何か研究するとした場合の仮想研究計画書をまとめてもらいます。初回授業時にその詳細を提示しますので、授業期間中もそれを見越して各自文献調査を進め構想を練っておくようにしてください。計画書を仮想で終わらせるのはもったいないと思ったら、ぜひ後期の同教員による基礎演習「入門的言語調査・実験法実践」を受講して実際に言語データを取得し分析するおもしろさを体験してください

科目名：現代言語学基礎演習／ Modern Linguistics (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：木山 幸子 (准教授)

講義コード：LB41204, **科目ナンバリング：**LHM-LIN209J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

入門的言語調査・実験法実践

2. Course Title (授業題目)：

Introductory Experiments in Language Processing

3. 授業の目的と概要：

本科目では、実証的な言語研究を実際に体験するために、グループを組んで調査・実験の小プロジェクトを行います。研究テーマ・デザインの立案、調査・実験素材の準備、データ収集、分析、まとめと発表までの一連の作業を授業期間内に行います。期間内に実現できるよう教員が適宜助言をしますが、基本的にはグループのメンバー同士の主体的な協同により、一つの(小さな)研究成果をあげてもらいます。この作業を通して、実証的な言語研究の醍醐味に触れてもらえればと思います。

4. 学習の到達目標：

実証的言語研究の一連の過程を体験することで、科学的思考方法および共同作業に必要な調整能力の基礎を身につける。また、実際の言語処理過程が自分一人の頭の中で想像していることとは決して同じではない(大いに異なる)ことを目の当たりにし、「データを取って確かめる」ことの意義を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス (教員)
2. 研究テーマ策定 (グループワーク)
3. 研究デザイン立案 (グループワーク)
4. 中間発表①：各々の計画の実現可能性についてグループ間で議論
5. 調査・実験素材の準備 (グループワーク)
6. 質問紙・実験プログラム等作成 (グループワーク)
7. データ整理・分析法の基礎 (教員)
8. データ整理 (グループワーク)
9. データ分析 (グループワーク)
10. 中間発表②：各グループの分析結果を共有し、全員で解釈の方向性を検討する
11. プレゼンテーションの基礎 (教員)
12. 分析結果の図表作成 (グループワーク)
13. 分析結果のまとめ (グループワーク)
14. プレゼンテーションの準備 (グループワーク)
15. 成果発表：グループごとのフラッシュトークと質疑応答

6. 成績評価方法：

グループワークへの貢献 (50%)、毎回授業の最後に課すワークシート (50%)

7. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

グループに分かれて小プロジェクトを行うので、相当の時間外学習・作業が必要になります。とくに、データを収集は完全に授業時間外に行ってもらうことになります。プロジェクトを成功させ他のメンバーに迷惑をかけないために、自分が分担する作業を責任をもって行う意思のある学生のみ受講登録してください (初回でその意思の確認をします)。

9. その他：

多様な背景を持つ意欲ある受講生を歓迎したいと思いますが、授業の性質上、受講者数を制限する可能性があります。その場合は、前期の同教員による基礎講読「語用論研究法入門」を受講済みの学生、言語学及び関連領域の学生を優先します。

科目名：言語交流学基礎講読／ Interlinguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：小泉 政利（教授）

講義コード：LB45101, 科目ナンバリング：LHM-LIN210J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

統語論入門

2. Course Title (授業題目)：

Introductio to Syntax

3. 授業の目的と概要：

この授業では、英文テキストの読解を通じて、統語論の基本的な概念と原理を学びます。また、学術文献の読解および口頭発表のスキルの獲得も目指します。

4. 学習の到達目標：

統語論の基本的な概念と原理について自分の言葉で説明できるようになること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに：統語論とは何か
2. 生成文法 1
3. 生成文法 2
4. 品詞 1
5. 品詞 2
6. 品詞 3
7. 構成素構造 1
8. 構成素構造 2
9. 構成素構造 3
10. 構造関係 1
11. 構造関係 2
12. 構造関係 3
13. 束縛理論 1
14. 束縛理論 2
15. 復習とまとめ

6. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・発表：40%
- ・宿題：40%
- ・平常点：20%

7. 教科書および参考書：

開講時に指示します。

They will be designated at the beginning of the course.

8. 授業時間外学習：

自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

9. その他：

科目名：音声学／ Phonetics

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：後藤 斉（教授）

講義コード：LB33405, 科目ナンバリング：LHM-LIN211J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

音声学概説・調音音声学

2. Course Title (授業題目)：

Introducion to phonetics, Articulatory phonetics

3. 授業の目的と概要：

音声は言語の基本的な側面である。この授業では、言語音の生成の原理と個別の音声の調音のしくみについて講義形式で扱う。あわせて国際音声記号のうちの主要な単音の発音および聴き取りの訓練も大きな比重を占めており、できるだけ時間をかけて発音の練習を行う。この際に、日本語の音声にも十分な注意を払う。また、担当教員の肉声以外に多様な音声サンプルに触れるようにする。

4. 学習の到達目標：

調音音声学の原理についての理論的な理解および国際音声記号の実践的な技能と知識を得ることによって、音声言語（特に日本語）の客観的な観察と記述に習熟する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス、言語における音声の位置づけ
2. 音声器官の構造と働き
3. 音声記述の原理と国際音声記号
4. 母音の調音、母音体系
5. 第一次基本母音
6. 第二次基本母音
7. 基本母音のまとめ
8. その他の母音と補助符号
9. 子音体系、破裂音、鼻音
10. 摩擦音
11. その他の肺臓気流子音
12. 非肺臓気流子音
13. アクセント
14. その他の超分節音
15. 日本語の音声

6. 成績評価方法：

授業への参加（60%）、小テスト（40%）

7. 教科書および参考書：

教科書：斎藤純男 『日本語音声学入門』（三省堂、2006）

参考書は <http://www2.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/phonetics.html> に記載してある。

ほか、資料を配布する。

8. 授業時間外学習：

授業中の発音練習に倣って、自分でも練習すること。

主要な音声記号が間違わずに書けるように練習すること。

9. その他：

発音練習の時間をできるだけ確保するために、受講者数を 30 名程度に制限する。言語学および隣接分野の専修の学生を優先する。

発音練習の際に手鏡を持参すること。

<http://www2.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/phonetics.html> も参照すること。

科目名：音声学／Phonetics

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：後藤 斉（教授）

講義コード：LB43406, 科目ナンバリング：LHM-LIN211J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

音響音声学

2. Course Title (授業題目)：

Acoustic phonetics

3. 授業の目的と概要：

音声は物理現象でもあるから、音声言語を客観的に観察し、理解するためには音声の音響的分析はきわめて有効な手法である。この授業では、音声の物理的性質についての講義ののち、音声分析装置（パソコン）を用いた音声の取得と分析の実習を行う。基本母音と日本語の音声を用いて、波形およびスペクトログラム、フォルマント等の分析結果の読み取りを行う。その結果を、すでに知っている調音音声学的事実および聴き取りと比較してみる。

内容として理科系的な要素が強いが、この授業では複雑な数式は使わない。

4. 学習の到達目標：

言語音の物理的側面の基礎を理解し、音声分析の手法に慣れることにより、言語音を客観的に観察する技術を身につける。連続音声の波形とスペクトログラムを読み取ることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス、音の物理
2. 純音の周波数と高さ
3. アナログとデジタル、サンプリングと量子化
4. パソコンにおける音声の取り扱いと音声分析装置
5. 複合音とスペクトル
6. 音源フィルター理論
7. 母音のスペクトログラムとフォルマント
8. 母音の音響的特徴（調音音声学的特徴との比較）
9. 広帯域と狭帯域のスペクトログラム
10. 子音（鳴音）の波形とスペクトログラム
11. 子音（阻害音）の波形とスペクトログラム
12. フォルマント遷移
13. 連続音声の波形とスペクトログラム、フォルマント
14. 有声と無声、VOT
15. ピッチ、その他

6. 成績評価方法：

授業への参加 40%、実習レポート 60%

授業期間中に3回の実習レポートを提出してもらう。レポートの書き方は指示に従うこと。

7. 教科書および参考書：

教科書：吉田友敬 『言語聴覚士の音響学入門』（海文堂，2006）

参考書は <http://www2.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/acoustics.html> に記載。

ほか資料を配布する。

8. 授業時間外学習：

音響学分野の用語や概念が頻出するので、理解を確かなものにするため十分な復習をすること。

レポートには十分な時間をかけること。

9. その他：

調音音声学の基礎を習得済みであることが望ましい。

<http://www2.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/acoustics.html> も参照すること。

講義資料の一部は次の URL に掲載する。

<http://www2.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/phonetics/>

科目名：現代言語学各論／ Modern Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：小泉 政利（教授）

講義コード：LB63302, **科目ナンバリング：**LHM-LIN303J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

言語と思考

2. Course Title (授業題目)：

Language and Thought

3. 授業の目的と概要：

どのような語順の言語を話すか（母語に持つか）にかかわらず人間の思考で最も好まれる順序は「動作主・被動者・行為」であるとする仮説がある(e.g. Goldin-Meadow et al 2008)。この一般化が OS 言語（目的語が主語よりも前にくる語順を基本語順とする言語）の話者についても当てはまるかどうかを言語認知脳科学の様々な研究事例に基づいて検証する。

4. 学習の到達目標：

言語と思考との関係について自分の言葉で説明できるようになること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに：言語と思考
2. SO 語順選好
3. カクチケル・マヤ語
4. 文理解における語順選好 I: 行動実験
5. 文理解における語順選好 II: fMRI
6. 文理解における語順選好 III: 脳波
7. 言語の基本語順と思考の順序
8. ここまでのまとめと復習
9. 文産出における語順選好 I
10. 文産出における語順選好 II
11. 文産出における語順選好 III
12. 文の理解と事象の認識
13. 文産出における処理負荷
14. カクチケル語の統語構造
15. まとめ, 筆記試験

6. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・筆記試験：50%
- ・読書レポート：30%
- ・ミニット・ペーパー：20%

7. 教科書および参考書：

開講時に指示します。

They will be designated at the beginning of the course.

8. 授業時間外学習：

自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

9. その他：

科目名：現代言語学各論／ Modern Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：斎藤 純男 (非常勤講師)

講義コード：LB98816, **科目ナンバリング：**LHM-LIN303J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

モンゴル語の歴史

2. Course Title (授業題目)：

History of the Mongolic Languages

3. 授業の目的と概要：

現在、西はカスピ海沿岸から東は中国東北地方にまで広く分布するモンゴル系諸言語がどのような変遷をたどってきたかを理解する。

4. 学習の到達目標：

モンゴル語はさまざまな種類の文字によって記録されてきたが、それらの文字の特徴と表記の限界を知り、文献を通して知ることのできるモンゴル語の構造を理解する。現代モンゴル系諸言語の構造についてもその流れの中で捕える。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

以下のような内容で講義を行う。

- ・モンゴル語の文献とその言語
 - 1 キタン語とキタン字文献
 - 2 ウイグル字文献
 - 3 パクパ字文献
 - 4 漢字文献
 - 5 アラビア字文献
 - 6 その他の文字による文献
- ・現代モンゴル系諸言語
 - 7 分布と分類
 - 8 狭義のモンゴル語
 - 9 その他のモンゴル系諸言語
 - 10 モンゴル系諸言語の主な特徴
- ・モンゴル語の史変遷
 - 11 母音 (母音調和、割れ)
 - 12 母音 (長母音、弱化母音)
 - 13 子音 (語頭の h-, その他)、アクセント
 - 14 文法 (動詞と形容詞の語尾、その他)
 - 15 語彙

6. 成績評価方法：

授業への取り組み 50%、レポート 50%

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを配布する。参考文献については授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

集中講義なので授業時間外学習には時間的な制約が大きいですが、講義に出てきた用語や固有名詞について信頼のおける資料を見て情報を補い、紹介した文献についてざっとでも目を通すことができれば、非常によい。なお、講義終了後、レポート執筆の際にはいくつかの文献に当たることとなる。

9. その他：

科目名：現代言語学各論／ Modern Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6), 単位数：2

担当教員：椎名 美智 (非常勤講師)

講義コード：LB98817, **科目ナンバリング：**LHM-LIN303J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

歴史語用論

2. Course Title (授業題目)：

Historical Pragmatics

3. 授業の目的と概要：

歴史語用論は昔の人たちがどのように話をしていたのか、過去のコミュニケーションを再現しようとする試みです。その基本的な考え方と研究方法について学び、自分でもテキストを分析できるような応用力をつけることを目的としています。具体的には、以下の3つのテーマを中心に授業を進めていきます。(1) 歴史語用論はどんな分野なのか？ (2) 歴史語用論のデータ問題とアプローチ (3) 事例研究。

最後の2回のワークショップでは、受講生は各自、自分の興味のある分野、ジャンルを一つ選び、過去のテキストと現在のテキストを選んで持ち寄り

4. 学習の到達目標：

歴史語用論の理論的な枠組みとアプローチを学び、事例研究を批判的に読解し、自らもテキスト分析ができるような技術を習得し、実際にテキスト分析をやってみる段階にまで到達することを目的としています。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション：歴史語用論の面白み
2. 歴史語用論のデータ問題：書かれた言葉と話された言葉
3. 歴史語用論研究の2つのアプローチと研究例：形式が先か、機能が先か
4. コーパス・アプローチ：社会語用論的アノテーション
5. 歴史語用論的アドレスターム（呼称・呼びかけ語）研究(1)：二人称代名詞のTVシステム
6. 歴史語用論的アドレスターム（呼称・呼びかけ語）研究(2)：コーパスを使った量的分析と質的分析
7. 歴史語用論的スピーチ・アクト研究：チャールズ一世の弾劾裁判（偉いのは国王か裁判長か？）
8. 初期近代英語期の疑問文の語用論的意味：裁判記録における疑問文のフォース
9. 現代日本語の疑問文の語用論的意味：裁判記録は文字通りの世界
10. ポライトネス研究：B&L以来のポライトネス理論の変遷
11. インポライトネス研究：インポライトはポライトの反対なのか？
12. 日本語ベネファクティブの歴史語用論：「させていただく」を中心に(1)
13. 日本語ベネファクティブの歴史語用論：「させていただく」を中心に(2)
14. 歴史語用論ワークショップ(1)：学生によるデータ紹介とコンサルテーション
15. 歴史語用論ワークショップ(2)：コンサルテーションと総括

6. 成績評価方法：

授業への積極的参加と貢献度(20%)、レポート(80%)

7. 教科書および参考書：

参考書（図書館等で読んでおいてください）

・高田博行・椎名美智・小野寺典子(2011)『歴史語用論入門—過去のコミュニケーションを復元する』（大修館書店）の1章、6章

・金水敏・高田博之・椎名美智共編著(2014)『歴史語用論の世界—文法化・待遇表現・発話行為』（ひつじ書房）の4章

・加藤重広・滝浦真人編(2016)『語用論研究法ガイドブック』（ひつじ書房）の4章

上記以外はネットで共有、または配布する予定

8. 授業時間外学習：

指示された論文や教材を読んで来ること。また、課題をやってくること。

9. その他：

科目名：言語交流学各論／ Interlinguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：後藤 斉 (教授)

講義コード：LB51203, **科目ナンバリング：**LHM-LIN304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

テキスト処理の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to text processing

3. 授業の目的と概要：

主な対象言語を日本語とし、必要に応じて英語における事情も参照しながら、主として以下の事項について講義する。さらに実習により、その知識をより深め、また応用力を磨く。

- ・テキストエディターと文字コード
- ・さまざまな種類のテキストアーカイブとコーパス
- ・正規表現
- ・KWIC コンコーダンサーと関連のツール
- ・オンラインコーパス検索

4. 学習の到達目標：

コンピュータを用いてテキストを分析する方法について、基本的な知識と技術を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. テキストエディター
3. 文字コード1 (ASCII, JIS)
4. 文字コード2 (Unicode)
5. テキストアーカイブとコーパス概観
6. 正規表現
7. 正規表現 (続き)
8. 正規表現 (続き)
9. 正規表現 (続き)
10. 英語用のコンコーダンサー
11. 英語用のコンコーダンサーと関連のツール
12. 日本語のコンコーダンサー
13. 日本語のコンコーダンサーと関連のツール
14. オンラインコーパス検索
15. 全体のまとめ

6. 成績評価方法：

授業への参加 40%、レポート 60%

7. 教科書および参考書：

参考書：大名力 『言語研究のための正規表現によるコーパス検索』(ひつじ書房, 2012)

ほか、<http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/textprocessing.html> に掲載。

8. 授業時間外学習：

紹介したツールは自身の関心に応じてさらに使ってみて、理解を確かなものにするよう努力すること。

9. その他：

<http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/textprocessing.html> も参照すること。

科目名：言語交流学各論／ Interlinguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：木山 幸子 (准教授)

講義コード：LB53202, **科目ナンバリング：**LHM-LIN304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

心理言語学方法論

2. Course Title (授業題目)：

Methodology of psycholinguistics

3. 授業の目的と概要：

心理言語学は、人間がことばをどのように学習し使っているのかについて、調査・実験によって確かめようという科学的研究分野です。本科目では、心理言語学でとられる主要な方法論の要点を理解するために、受講生自身に文献を理解してまとめ、他の受講生と共有してもらいます。一つの研究目的に対してなぜこのような方法論がとられているのかを考えながら、心理言語学の方法論の趣旨を理解することを目指します。また、グループワークを通して、専門的な文献の要点を把握する基本的読解力と研究のプレゼンテーションの基礎を身につけることを意図してい

4. 学習の到達目標：

心理言語学および関連分野の関心事の要点、またそれに応じた方法論の概要を理解する。それらを踏まえて独自の研究計画を立案できるようになる。また、自身が調査した文献の要点を過不足なくまとめて専門外の他者にもわかりやすく伝えられるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス (教員)
2. 実証研究の論文の構成 (教員)
3. 質問紙法 (受講生)
4. 談話完成タスク (受講生)
5. 会話分析 (受講生)
6. 発達 (縦断的) 研究 (受講生)
7. 言語処理の実験法の概要 (教員)
8. 反応時間 (受講生)
9. プライミング (受講生)
10. 視線計測 (受講生)
11. 言語の脳機能研究について (教員)
12. 脳波、事象関連電位 (受講生)
13. 脳機能イメージング (受講生)
14. フィールドでの実験研究 (受講生)
15. まとめ：心理言語学の未来 (教員)

6. 成績評価方法：

期末レポート (50%)、発表分担 (30%)、毎回授業の最後に課すワークシート (20%)、授業時間外の関連の調査・実験の体験 (若干)

7. 教科書および参考書：

指定しない。各回で講読する文献のパッケージを配布する。

8. 授業時間外学習：

受講者全員に発表を担当してもらうので、その準備を他のメンバーとよく協力して進め、自分の分担作業は責任をもって行うこと (その自信がない場合は受講しないこと)。また、関連する調査や実験に参加してもらう機会を設けます (参加は任意)。

9. その他：

期末レポートとして、何か心理言語学の研究を行うとした場合の仮想研究計画書をまとめてもらいます。初回授業時にその詳細を提示しますので、授業期間中もそれを見越して各自文献調査を進め構想を練っておくようにしてください。

科目名：現代言語学演習／ Modern Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：後藤 斉・木山 幸子（教授）

講義コード：LB55305, **科目ナンバリング：**LHM-LIN311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

言語学研究法 I

2. Course Title (授業題目)：

Methods of linguistic research I

3. 授業の目的と概要：

授業は、参加者の分担による論文紹介の発表および質疑応答の形式で行う。これにより、卒業論文作成のための基礎知識ならびに方法を身につけることを目的とする。

1. 発表者は自分の関心により論文を選択し、論文の目的、方法、結果、考察についての確にハンドアウトにまとめて紹介する。その際、テーマの発見、調査や実験の実施、論の展開と提示、統計処理、参考文献の利用と提示など、論文を書くために必要な事項について批判的な姿勢から学びとる。

2. 参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、言語学の

4. 学習の到達目標：

言語現象に対する様々なアプローチを理解しながら、自らの関心対象を絞り、卒業論文のテーマを決定する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 論文1の紹介発表、質疑応答
3. 論文2の紹介発表、質疑応答
4. 論文3の紹介発表、質疑応答
5. 論文4の紹介発表、質疑応答
6. 論文5の紹介発表、質疑応答
7. 論文6の紹介発表、質疑応答
8. 論文7の紹介発表、質疑応答
9. 論文8の紹介発表、質疑応答
10. 論文9の紹介発表、質疑応答
11. 論文10の紹介発表、質疑応答
12. 論文11の紹介発表、質疑応答
13. 論文12の紹介発表、質疑応答
14. 論文13の紹介発表、質疑応答
15. 全体のまとめ

6. 成績評価方法：

授業への参加 60%、発表 40%

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

8. 授業時間外学習：

発表のためのハンドアウトは、事前に準備し、配布すること。

9. その他：

科目名：現代言語学演習／ Modern Linguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：後藤 斉, 小泉 政利, 木山 幸子 (教授)

講義コード：LB65304, **科目ナンバリング：**LHM-LIN311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

言語学研究法 II

2. Course Title (授業題目)：

Methods of linguistic research II

3. 授業の目的と概要：

3 年生は前期に引き続き論文紹介の発表を行い、4 年生は卒業論文の計画を中間発表する。これにより、卒業論文作成のための知識ならびに方法をさらに深く身につけることを目的とする。

1. 卒業論文の中間発表においては、テーマの選択や先行研究の動向についてまとめ、データ収集・調査・実験等の実施方法、分析手法、予想される結果などについて、できるだけ具体的な経過と見通しを発表する。
2. 参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、言語学の多様なアプローチへの理解を深めるとともに、論文を書いた

4. 学習の到達目標：

よりよい卒業論文を作成するための方法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 論文 1 の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表
3. 論文 2 の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表
4. 論文 3 の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表
5. 論文 4 の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表
6. 論文 5 の紹介発表、質疑応答
7. 論文 6 の紹介発表、質疑応答
8. 論文 7 の紹介発表、質疑応答
9. 論文 8 の紹介発表、質疑応答
10. 論文 9 の紹介発表、質疑応答
11. 論文 10 の紹介発表、質疑応答
12. 論文 11 の紹介発表、質疑応答
13. 論文 12 の紹介発表、質疑応答
14. 論文 13 の紹介発表、質疑応答
15. 全体のまとめ

6. 成績評価方法：

授業への参加 60%、発表 40%

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

8. 授業時間外学習：

発表のためのハンドアウトを事前に準備し、配布する。

9. その他：

科目名：言語交流学演習／ Interlinguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：後藤 斉 (教授)

講義コード：LB51404, **科目ナンバリング：**LHM-LIN312J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

コーパスによる言語の分析

2. Course Title (授業題目)：

Analysis of language with corpora

3. 授業の目的と概要：

2011 年に国立国語研究所が公開した現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) は、日本語のコーパス言語学に新しいページを開いた。しかし、それを適切に利用することは実は容易ではない。BCCWJ の構成や検索ソフトウェアの仕様などを知ることによって、日本語の研究のために BCCWJ を適切に利用することができるようになることが、この授業の目的である。BCCWJ の設計と構築に関する教科書を読みながら、必要に応じて他の資料から詳細な補足的情報も得て、知識を深める。実際にさまざまな条件で検索を行い、BCCWJ のデータの

4. 学習の到達目標：

BCCWJ の性質を理解し、言語研究に役立たせるための技能を得る。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. コーパスにおける設計。サンプリング
3. BCCWJ の設計
4. BCCWJ のサブコーパスの特徴
5. BCCWJ における書籍のサンプリング
6. BCCWJ の電子化フォーマット
7. BCCWJ における言語単位
8. BCCWJ における形態素解析
9. 検索サイト： 少納言
10. 検索サイト： 中納言
11. 中納言の高度な使用
12. 歴史コーパスなど
13. 国語研日本語ウェブコーパスなど
14. その他のコーパス
15. 全体のまとめ

6. 成績評価方法：

授業への参加 40%、レポート 60%

7. 教科書および参考書：

山崎誠編『書き言葉コーパス 設計と構築』(朝倉書店、2014)

ほか、資料を用意する。

8. 授業時間外学習：

授業時間外にも、関連情報の取得に努め、自主的にコーパスを利用してみることを。

9. その他：

科目名：言語交流学演習／ Interlinguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：木山 幸子 (准教授)

講義コード：LB52206, **科目ナンバリング：**LHM-LIN312J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

言語データ分析法基礎

2. Course Title (授業題目)：

Basic Methods of Language Data Analysis

3. 授業の目的と概要：

本科目では、言語研究に必要なデータ分析の実習を行います。用意された課題データについて、統計ソフトウェアを使いながら分析を体験してもらいます。統計学の専門家ではなくとも、言語データを定量的に分析することの楽しさを味わってもらいたいと思います。

4. 学習の到達目標：

定量的言語研究に必要な基本的な統計分析手法の要点を把握する。また、自身が扱う言語データについて、統計ソフトウェアを使って適切に分析できる素地を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 変数の色々
3. 統計的検定
4. カイ二乗検定①
5. カイ二乗検定②
6. 残差分析
7. 評定者間信頼性分析
8. データの分布・標準化
9. t 検定①
10. t 検定②
11. t 検定③
12. 分散分析 (Analysis of variance: ANOVA) ①
13. 分散分析 (Analysis of variance: ANOVA) ②
14. 分散分析 (Analysis of variance: ANOVA) ③
15. まとめと最終テスト

6. 成績評価方法：

実習 (50%)、毎回授業の最後に課すワークシート (30%)、期末テスト (20%)、授業時間外の関連の調査・実験の体験 (若干)

7. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

実習の内容を確認する宿題を課すことがあります。また、関連の調査や実験に参加してもらう機会を設けます (参加は任意)。

9. その他：

文学部の学生にとって、統計分析は必ずしもなじみやすいものではないかもしれません。実際、数多くある分析手法を駆使できるようになるには相当の訓練と経験が必要になると思います。わからないことは当たり前なので、分析の考え方でもソフトの扱い方でも、つまづいたら遠慮なく尋ねてください。授業外の質問も歓迎します。意欲ある受講生の皆さんが自立的に言語データ分析ができるようになるためのサポートをしたいと思います。

科目名：言語交流学演習／ Interlinguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：木山 幸子 (准教授)

講義コード：LB62208, **科目ナンバリング：**LHM-LIN312J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

言語データ分析法発展

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Methods of Language Data Analysis

3. 授業の目的と概要：

本科目では、言語研究に必要なデータ分析の実習を行います。後期はとくに、種々の多変量解析の手法を扱います。用意された課題データについて、統計ソフトウェアを使いながら分析を体験してもらいます。統計学の専門家ではなくとも、言語データが多変量解析から示される結果のおもしろさを味わってみたいと思います。

4. 学習の到達目標：

定量的言語研究に必要な多変量解析手法の要点を把握する。また、多要因で構成される言語データについて、統計ソフトウェアを使って適切に分析できる素地を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 統計的検定の概要
3. 相関分析①
4. 相関分析②
5. 尺度の信頼性分析
6. 回帰分析①
7. 回帰分析②
8. 回帰分析③
9. 共分散分析 (Analysis of covariance: ANCOVA) ①
10. 共分散分析 (Analysis of covariance: ANCOVA) ②
11. マルチレベルモデリング (線形混合効果モデル) ①
12. マルチレベルモデリング (線形混合効果モデル) ②
13. マルチレベルモデリング (線形混合効果モデル) ③
14. マルチレベルモデリング (線形混合効果モデル) ④
15. まとめと最終テスト

6. 成績評価方法：

実習 (50%)、毎回授業の最後に課すワークシート (30%)、期末テスト (20%)、授業時間外の関連調査・実験の体験 (若干)

7. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

実習の内容を確認する宿題を課すことがあります。また、関連の調査や実験に参加してもらう機会を設けます (参加は任意)。

9. その他：

本科目は、前期の同教員による言語交流学演習「言語データ分析法基礎」の続きですので、同科目の単位を修得済みであるか、その内容を十分に習得している学生のみ受講を認めます。前期に引き続き、自由に質問できる環境をつくり、意欲ある受講生の皆さんが自立的に言語データ分析ができるようになるためのサポートをしたいと思います。

科目名：言語交流学演習／ Interlinguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：小泉 政利（教授）

講義コード：LB63403, 科目ナンバリング：LHM-LIN312J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

生成統語論

2. Course Title (授業題目)：

Generative Syntax

3. 授業の目的と概要：

この授業では、生成統語論の基本的な概念と原理を学びます。また、口頭発表および自律的な学習習慣のスキルの獲得も目指します。

4. 学習の到達目標：

生成統語論の基本的な概念と原理について自分の言葉で説明できるようになること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに：統語論とは何か
2. 生成文法 1
3. 生成文法 2
4. 品詞 1
5. 品詞 2
6. 品詞 3
7. 構成素構造 1
8. 構成素構造 2
9. 構成素構造 3
10. 構造関係 1
11. 構造関係 2
12. 構造関係 3
13. 束縛理論 1
14. 束縛理論 2
15. 復習とまとめ

6. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・発表：40%
- ・宿題：40%
- ・平常点：20%

7. 教科書および参考書：

開講時に指示します。

They will be designated at the beginning of the course.

8. 授業時間外学習：

自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

9. その他：

科目名：言語交流学演習／ Interlinguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：後藤 斉 (教授)

講義コード：LB65208, **科目ナンバリング：**LHM-LIN312J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

コーパス言語学の展開

2. Course Title (授業題目)：

Advances in corpus linguistics

3. 授業の目的と概要：

2011 年に国立国語研究所により開発された「現代日本語書き言葉均衡コーパス」により、日本語研究に新しいインフラがもたらされた。これ以外にも各種の日本語コーパスが開発され、公開されつつある。コーパスを利用した日本語研究の文献・論文を読むことによって、コーパスの意義およびコーパス利用の動向への理解を深め、将来に向けた可能性についても考察する。

担当者が論文を紹介し、コーパスを使う意義に特に注目しながら、内容を検討していく形式で授業を行う。

4. 学習の到達目標：

コーパスを利用する意義やコーパスを利用した日本語研究の現状、およびその可能性について深い理解を得る。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 論文紹介および検討 1
3. 論文紹介および検討 2
4. 論文紹介および検討 3
5. 論文紹介および検討 4
6. 論文紹介および検討 5
7. 論文紹介および検討 6
8. 論文紹介および検討 7
9. 論文紹介および検討 8
10. 論文紹介および検討 9
11. 論文紹介および検討 10
12. 論文紹介および検討 11
13. 論文紹介および検討 12
14. 論文紹介および検討 13
15. まとめ

6. 成績評価方法：

発表・議論への参加 60%、レポート 40%

7. 教科書および参考書：

教科書は用いない。資料を配布する。

8. 授業時間外学習：

適切な論文を選択できるよう、あらかじめ十分に検討すること。

9. その他：